

地域 とのつながりが大きな助けに

日頃から地域で 助け合える関係を

地域による取り組みの一つとして挙げられるのが、地域に住む方が互いに協力し合い、自分たちの地域は自分たちで守るという自覚と連帯意識に基づき自主的に結成する『自主防災組織』です。

登別市は、37の自主防災組織が町会・町内会・自治会・地区連合町内会により組織されており、災害発生時に、災害情報の収集と住民への伝達や避難誘導、被災者の救護・救出など、災害時の初期活動を行います。消防

などの防災関係機関が現場に到着するまでの間、地域の方がこうした活動を組織的にを行い、被害を最小限に抑えるよう取り組みを進めています。

また、平常時には、緊急連絡網の作成や防災マップを活用した避難訓練の実施、防災研修会の企画・実施などを行うほか、冬期の災害発生を想定した冬期防災訓練を行っている地域もあります。

自主防災組織を 支援します

市は、結成された自主防災組織に対して、組織の活動に必要な

な防災資機材の購入に対する補助を実施しています。

補助の対象となる組織や防災資機材の種類、補助の交付申請方法などについては、総務グループ（☎1130）へ問い合わせください。

〈補助対象組織と補助率〉

- ・新規に結成した自主防災組織…補助対象経費の合計額の全額
 - ・過去に補助金交付を受けてから10年経過した自主防災組織…補助対象経費の合計額の3分の2に相当する額
- ※補助対象経費は加入世帯数に応じた上限額があります。

取り組み 事例



登別本町2町会会長
畠山憲一さん

東日本大震災の発生をきっかけに、町会で自主的に津波避難訓練を開始して今年で14回目となります。地域を歩いて、避難経路に危険箇所がないか、避難場所まで到着するのにどのくらいの時間がかかるかなどを確認することで、自分の地域をよく知っておくことが大切だと実感しています。

冬期の津波避難訓練では、寒さの問題や足場が悪くなるので動きにくく、避難は夏よりも大変になりますし、夜間の津波避難訓練では、「知っている道なのに、夜になると暗くて迷いそうになった」と話す高齢の方もいました。災害はいつ起きるかわからないため、さまざまな状況を想定して訓練を行うことで気付かされるものがたくさんありますね。

また、若い方の力も含め、地域で助け合うことも大切だと感じています。日頃から隣近所や地域と交流をすることで、互いに顔を知り、いざというときにも声を掛けたり、助けたりすることができると思います。

ぜひ、普段からのご近所との交流をはじめ、防災訓練などへの参加で、地域との交流をもつ機会をつくってほしいですね。

避難行動要支援者への取り組み

災害時に自ら避難することが困難で、特に支援を必要とする避難行動要支援者の方が円滑に避難できるよう、市は『避難行動要支援者名簿（兼きずなづくり台帳）』を作成し、同意を得た避難行動要支援者の方の情報を警察や消防、社会福祉協議会、民生委員児童委員、町内会、町会、自治会に提供しています。

これにより、災害時などの安否確認や避難の付き添いなどの地域の支援活動に活用しています。支援を必要とされる方は、事前に登録が必要です。詳しくは総務グループ（☎1130）へ問い合わせください。

